



白川小だより

学校の教育目標

ひとりだち

すすんで (自立)
なかよく (共生)
みんなのために(貢献)

平成28年5月31日(火)

大切な人を感じる心

白川郷学園白川小学校 校長 下出 尚弘

5月24日、25日の2日間、6年生12名と京都・奈良の修学旅行に行ってきました。

本年度も昨年度に続き、外国の方に自作の白川郷の映像をタブレットで見せながら、英語でコミュニケーションを図ることに挑戦しました。伴リ、カダ、イド、ワソ、ユヅ、ラド、ヌイ、ウア、ル、イの8カ国の方と交流することができました。今後は、白川郷に来てくださる外国人観光客の方々とも積極的にかかわる取り組みを仕組みながら、グローバル社会に適応できる人づくりにつなげていきたいと考えています。子どもたちにとっては一生に一度の修学旅行。何よりも、全員で楽しく無事に行ってきたことを感謝しています。

今回の修学旅行で強く心に残っていることが二つあります。

一つは、子どもたちの素直な反応です。岐阜羽島駅で、新幹線が猛スピードで走り抜けるのを目の当たりにして歓声を挙げる子どもたち。帰りのバスの窓から白川郷の風景が見えてくると「なんか安心するー」「ほっとするなあ」と自分の気持ちを素直に言葉にできる子どもたち。感動を素直に表現できる純粋な子どもたちの姿にジーンとすることが度々ありました。

もう一つは、京都タワーでの土産物売り場での光景です。財布を握りしめながら何を買おうか真剣に考えている子どもたち。「おじいちゃんとおばあちゃんには、〇〇を買ったよ。」「お父さんには〇〇買ったよ。」「お母さん、これ喜ぶかなあ。」「妹に、何がいいかな?」・・・笑顔で話しかけてくれました。一人一人が、家族やお世話になった方の顔を思い浮かべながら、限られたおこづかいでお土産を買う姿をほほえましく眺めました。大切な人を感じる心を感じ、ジーンとききました。

そして、「ふるさとを愛する心」の源には、「家族を感じる心」

「大切な人を感じる心」があるのだと思いました。子どもたちにとって、この白川村での家族や地域の方とのあたたかいかわりや一生懸命取り組んだ体験が、「家族を感じる心」「大切な人を感じる心」をうみ、そうした人を感じる心が、白川村が「好き」「戻ってきたい」「貢献したい」という思いにつながっていくのだと思いました。子どもたちは、そういった思いを着実にふくらませています。

白川村の子どもたちの素直さや大切な人を感じる心にふれ、あらためて白川村の子どもたちが愛おしく思えた2日間でした。



伏見稲荷神社 フランスの方と記念撮影



清水寺 カナダの方と英語で交流・握手



南禅寺付近 八つ橋づくりを体験



東大寺大仏殿 児童12名 職員3名全員で